

真夜中の恐怖

暑い季節がやってきました。夏になると必ずやってくるアイツ，そうムカデです。播磨病院でも夏になるとムカデに咬まれていらっしゃる患者さんが後をたちません。特にムカデは夜行性のため，夜間救急でいらっしゃる患者さんも多く，今回は夏に向けてムカデに咬まれた時の対処法をご紹介します。

ムカデに咬まれたら

ムカデに咬まれたら直ちに引き離し，熱湯をかける，もしくはムカデの頭をつぶして殺します。その後，かみ跡から毒をできるだけ絞り出してください。水道の流水などに患部を浸しながら行えばさらに有効です。ムカデの毒は神経毒ですので薬を塗っても，すぐに痛みが引くわけではありません。痛みが続く場合は必要に応じて医師にご相談ください。

アナフィラキシーショックとは

アナフィラキシーショックとは，ショック症状を起こす激しいアレルギー反応のことです。過去にムカデに咬まれたことがある人は，とくに注意が必要です。以前に咬まれたことがある場合，体内に毒に対する抗体ができているため，2度目以後に刺されると体内の抗体が毒素と激しく反応してショックを起こしてしまうことがあります。アナフィラキシーショックを起こすと，呼吸困難，血圧低下，全身けいれんなどのショック症状を示し，場合によっては重篤になることもあります。

受診に際して

アナフィラキシー症状がなく，咬まれた部位が痛むだけの場合は，基本的にはステロイド含有軟膏などで経過をみるだけですが，咬まれた後に気分不良，呼吸困難などのアナフィラキシー症状が出ている場合は，できるだけ速やかに来院する必要があります。アナフィラキシー症状に対しては効アレルギー剤，ステロイド剤の点滴を行います。更に症状が続く場合は入院して頂く場合もあります。また，受診の際には以前に咬まれたことがあるかどうかを伝えるようにしてください。

(文責：土井)

【播磨病院内科疾患情報のバックナンバーは播磨病院のホームページ <http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧になれます。】